

SEITEN ICHIRO

こんなこともやっています

活動報告『青天塾』

様々な分野のスペシャリストや講師をお招きして、勉強会『青天塾』やワークショップなどを毎月開催しております。継続した情報発信によって地域活動や県政に対する関心・理解につながるものと確信しております。

榛名湖フィールドワーク

2019年
6月16日

【ゲスト】小川 滋さん (株式会社 電通)
加藤 遼さん (株式会社 パナソニック)

【場所】榛名湖

榛名湖周辺地域の現状を視察。観光・人材交流・SDGsなどの観点からみた榛名湖を考えるトークセッションの実施。



第1回青天塾 「IOT・5Gなど次世代情報技術」

2019年
7月16日

【講師】金井 修さん (株式会社 クライム)
【場所】マリエール高崎

ICT・ロボテック・AIなどの次世代技術のビジネス、生活における可能性についての講義を実施。



第2回青天塾 「シェアリングエコノミー」

2019年
8月22日

【講師】佐別当 隆志さん (株式会社 ADDRESS)
北嶋 史誉さん (株式会社 エムダブルエス日高)
星野 麻実さん (NPO法人 キッズバレイ)

【場所】TREE高崎

シェアリングエコノミーの事例や群馬での活動などについて講義とトークセッションを実施。



第3回青天塾 「SDG'sと地方創生」

2019年
9月24日

【講師】小菅 隆太さん (Issue+design)
大澤 博史さん (まちごと屋)

【場所】本町しもたや

持続可能社会の実現に向けた、ソーシャルデザインの事例紹介や、リノベーション等を用いた地方創生の可能性についての講義を実施。



第4回青天塾 「榛名山麓の未来を考える」

2019年
10月23日

【講師】小川 滋さん (株式会社 電通)
野口 佳絵さん (Nagatacho GRID)

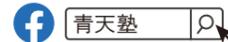
【場所】榛名福祉会館

国内・海外の地方都市のまちづくり事例をふまえ、榛名山麓地域のまちづくりについて考える講義を実施。



今後も多岐にわたるテーマで青天塾を実施していく予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

※青天塾の告知・詳細については Facebook ページでご確認ください。



高井俊一郎 プロフィール

- 三山幼稚園、西小学校、並榎中学校、新島学園高校、國學院大学 卒
- 早稲田大学大学院 公共経営修士
- 安産・子育ての宮 山名八幡宮 宮司
- 元 高崎市議会議員 (2期8年)
- 公益社団法人 高崎青年会議所 第63代理事長

青天一路 発行：高井俊一郎 後援会
〒370-1213 群馬県高崎市山名町1510-1
(TEL) 027-346-1736
(FAX) 027-346-2201
(E-mail) shunote@eagle.ocn.ne.jp
(HP) https://shunichiro.site

あたらしい
ぐんまを
かんがえる。

青天一路

SEITEN ICHIRO

群馬県議会議員
高井俊一郎
「青天一路」
2019年10月吉日

www.takaishunichiro.jp/

台風19号の影響により被災されました全ての方々に、お悔やみとお見舞いを申し上げます。

高井俊一郎

本年4月に執行された群馬県議会議員選挙におきまして、14,964票もの得票数で初当選させていただきました。地元・南八幡地域をはじめとする後援会の皆様、心より感謝を申し上げます。皆様から頂戴した付託と信頼に応えられるよう、努力してまいりますので、引き続きのご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

当選から半年余り。「県政を身近に感じることができない」という有権者の声をよく耳にします。このような現況を変えていくためには、議員の『発信力』が重要です。市議会議員時代に作成していた「青天一路」を継続発行し、県政に対する私の姿勢やメッセージをお伝えしていきたいと考えております。どうぞ、ご一読ください。



第2回定例会 一般質問 (令和元年5月29日)

県議会で初めての一般質問に臨み、以下の内容について質問させていただきました。(添付のQRコードから動画も視聴できます) 今後も、広聴活動に励みながら有意義な質問・提案を心がけて参ります。地域内にお困りごとのある方、ご意見やご要望などお待ちしております。

● 県庁のICT(情報通信技術)について

● 「スーパーシティ構想」について

● 新しい働き方・暮らし方への対応について

- 人口動態について
- まちづくりについて
- 新しい働き方・暮らし方に対応した移住政策について

● Gメッセ群馬について

● 新しい交流・観光について

- 新しい交流について(シェアリングエコノミー)
- 榛名湖観光について

動画が
視聴できます。



青天クロストークvol.01

真っ暗闇で 交差点を渡るには。

地域の方々から、様々な相談を頂きます。今回は、視覚障害者である浜田幸一さんから、ご自宅近くの交差点への音響式信号機設置についての話です。浜田さんは全盲です。日常生活に、どのようなご苦労があるのでしょうか。信号機設置に向けてお話ししました。



とても歩きにくいです。私たちは、聴覚や触覚を使って、その道に何があるのか、何を目印にすればよいかを把握しないと、安全に歩くことはできません。

T 注意するポイントが多くて怖いですね。

H 地元の警察や市に、音響式信号機の設置を要請していたのですが、なかなか実現しません。

T そういった状況のなか、実際にどうやって通っているのですか？

H 聞き耳を立てて、車や人の気配がしなくなったら歩いています。でも、工事の音がうるさくて、気配を感じとるのが難しいときもあります。視覚障害者に対する誘導や補助ができるガードマンの方もおらず、私が白杖を持っても、視覚障害者だと分からないこともありました。

T それは大変ですね…。

H 自転に乗った子どもとぶつかったこともあり、本当に困っていて、い



ろいろな方に相談しています。

- ICTやIOTの活用で
- 視覚障害者も暮らしやすく。

T お話を伺って、私も実際に交差点を見に行きました。写真撮影をして、警察署に説明に行き、対応をお願いしたのですが、予算も限られ、設置への優先順位もあり、すぐには難しいとの返答でした。それでも早急に検討してほしいと

- 通勤途中の5差路交差点
- 横断歩道を安心して渡れない。

高井 (以下:T) ご自宅近くの交差点でお困り、とのことですが具体的に話を聞かせてもらえますか。

浜田さん (以下:H) 私の通勤路に5差路の交差点があります。その交差点は、4年ほど前から拡張工事がずっと続いています。どんどん環境が変わるので



藤岡大胡線といちよう並木通りの5差路交差点。



音響式信号機を設置してほしい。

浜田さんの困ったエピソード!!

- 電車で空いている席を探していて、乗客の上に座ってしまった。
- 点字ブロックで囲まれた駅前の噴水の周りを、ブロックを辿ってぐるぐる回ってしまった。(ご友人の話です)

こういった話は実際に聴かないと分かりにくい。ぼくらが気付けない不自由さは、身の回りにたくさんありますね。(高井)

要請しています。

H ありがとうございます。

T もう一つ、警察に要請しているのが、スマートフォンのアプリケーションの活用です。音響式信号機を設置できない理由が費用にあるのなら、アプリを活用することでもっと安価にできるのではないかと。この点については調査を依頼しています。

H 私のスマートフォンには、文章読み上げ機能用のアプリを入れています。FacebookなどのSNSも読み上げることができますよ。

T いろいろなアプリも出てきていますよね。アプリケーションを活用することで、コストを抑えつつ、誰にとっても快適な地域に近づくとお思います。

H そうですね。仙台市ではダウンロードしたアプリを使って、信号の赤・青を読み上げて伝えることができるようです。

- 「共感者」を増やす
- 体験型イベントを企画中。

T もう一つ、この件に予算がつきにくい理由があると思っています。それは視覚障害者がマイノリティー、絶対数が少ないという点です。ここをどう打破するか…それは共感する人を増やすことだと思うんです。

H ええ。

T そのためのポイントが「体験」です。私は先日、完全な暗闇を体験できるイベントに参加したのですが、視覚障害者の方は、こんな不自由な状況で、しっかりと生活していることに、尊敬の念を抱きました。そこで、同じような体験型のイベントを考えています。イベントでは、現場の交差点を、健康者に目が見えない状態で渡ってほしい。それがどれだけ怖いことか感じられるはず。体験をして共感する。そして、信号機設置の署名をする。そこまでをセットにした参加型の企画にしたいですね。

H なるほど。

T 白杖を持っている人を助けたくないと思う人なんて、いないはず。でも、どんなことで困っているかわからない。何も知らないと、視覚障害者の方は悠々と歩いているように見えることもある。実はこんなに困っているなんて、ただ見ているだけじゃわからない。

H はい。

T 健康者は、加害者にもなり得ますよね。視覚障害者の方と交通事故を起こしてしまうとか。だから、視覚障害者だけの問題ではない、社会全体の課題なんだよ、と訴えていかないといけないと考えています。



読み上げ機能付きのスマートフォンやパソコンは生活に欠かせない。



杖を50センチほど持ち上げる。これは助けを求めサインです。

浜田幸一

住宅型有料老人ホーム 休屋 (やすみや) 機能訓練指導員

1959年群馬県多野群生生まれ。趣味はマラソン。1997年、視覚障害者と健常者のランナーで作る伴走サークル、ランモード群馬を設立。先天性の弱視で、2014年、網膜剥離により全盲の状態に。

解決に向けた次のアクションとして

- 1 議会、警察機関への請願・陳情、議会での質問の継続。
- 2 IOT・ICTを活用したコストを抑えた解決策の提案。

現場に繰り返し足を運ぶ！政治家として当然の行動です。誠心誠意の対応が大原則。

- 3 体験型イベントにより共感者を募る。

少数派の声だからなかなか普及しない！不便や苦労を体験してもらい、賛同者を増やしていくことでマジョリティ(多数派)に変えていくことも必要です。

アプリケーションや新しい情報技術を使った最新システムの提案！この交差点以外でも、応用が可能になり、他の視覚障害者の方々にとっても有益な施策となります。